

# 研究主題「中学校英語科における、自分の考えが読み手に正しく伝わるように書くことの指導法の工夫

～文のつながりや構成を考えた文章を書くことを通して～

東京都教職員研修センター 研修部 企画課  
杉並区立高南中学校 教諭 中村淳子

## 研究のねらい

「平成16年度東京の教育に関する都民意識調査」では都民の大半が、国際社会で活躍するためには、自分の考えを相手に伝える力を身につけることが必要であると考えている。また国の『英語が使える日本人』の育成のための行動計画の基の文化審議会「これからの時代に求められる国語力について」は、外国語によるコミュニケーション能力は、「自らの考えを論理的で、かつ説得力をもった言葉で表現する」力、すなわち論理的表現力が基本になるとしている。

しかし、中学生の実態を見ると、英語で表現すること、特に、英語で自分の考えを書くことが不得意な生徒が多い。また、指導の面でも、まとまった文章を書くための活動の工夫はされているが、自分の考えを相手に伝えるためにはどのように書く指導をするのがよいのか、書いたものをどのように評価し指導に生かすのかという点での工夫が少ないと考える。

そこで研究主題を「中学校英語科における、自分の考えが読み手に正しく伝わるように書くことの指導法の工夫」と設定し、次の2点を研究のねらいとした。

書くことにおいて、文のつながりや文章の構成に着目した指導法の工夫をすること。

文のつながりや文章の構成に着目した活動例を作成すること。

## 研究の方法

研究は以下の3つの方法により進めた。

研究方法	目的	内容
基礎研究	書くことの指導のあり方や生徒の課題を明らかにする。	学習指導要領、国や東京都の関連資料、先行研究等を調べる。
調査研究	英語で書くことについての生徒の意識や表現の能力の実態を明らかにする。	検証授業を受ける生徒を対象に、授業の前後に、意識調査とペーパーテスト形式の表現力調査を行う。
授業研究	指導の手だてに基づく活動例を作成し、その有効性を検証するとともに、改善を図る。	中学校3年生を対象に検証授業を行う。

## 研究の内容

### 1 書くことの指導上の課題

国の「平成13年度教育課程実施状況調査」と都の「平成15年度中学校学力向上を図るための調査」で、中学校英語の書くことに課題があることが明らかになった。特に、国の調査では、代表的な誤答を示し、

指導上の課題を指摘している。誤答例は、与えられた話題について内容のつながる英文を

誤答例1 (中学2年)	誤答例2 (中学3年)
<b>My favorite sport is baseball.</b> I play baseball. <b>I like baseball.</b>	<b>This is an important dictionary.</b> <b>This is an important watch.</b> <b>This is an important video game.</b>

書く問題から、代表的なものを示している。誤答例には文法事項の目立った誤りはない。しかし、例1のように同一の内容を繰り返したり、例2のように覚えている単純な文を反復し複数の話題を羅列している。両方とも文章としての展開ができていないと述べている。このことから、次の2点に関する指導に課題があるとしている。

- (1) 「複数の文のつながる文章を書くこと」( **文のつながり** ) の指導  
 (2) 「まとまった英文を書く際の基本的な構成の仕方」( **文章の構成** ) の指導

## 2 英語科における、文のつながりや文章の構成に関する指導内容

文をつなげ文章を構成する力は、コミュニケーション能力の基本となる論理的表現力の要であると考え。そこで、この視点から、中・高等学校学習指導要領解説外国語編の内容を分析し、書くことの内容を整理した。その結果、中学校学習指導要領解説外国語編は、読み手に正しく伝わるように書く上で大切なこととして次の4点を示している。

読み手を想定すること 自分の考えや気持ちを明確にすること	伝える内容の事実関係や順序などを整理すること 適切な表現を用いること
---------------------------------	---------------------------------------

## 3 「文のつながりや文章の構成」に着目した指導の手だて

上記の論理的表現力に關係する4点と、文をつなげ文章を構成する力を下のように3つに分類し、表1のように「文のつながりや文章の構成に着目した指導の手だて」としてまとめた。「整理」は記述の前段階として、

伝える内容を明確にし整理することを目的とした。「構成・記述」は、本研究の中心部分として、文のつながりや文章の構成を考えて書く力

論理的表現力にかかわる事柄	分類
・内容の事実関係や順序などを整理する。 ・自分の考えや気持ちを明確にする。	整理
・読み手を想定する。 ・文のつながりや文章の構成を考えて書く。	構成・記述
・適切な表現を用いる。 ・読み手の立場になって自分の文章を読み返し書き直す。	推敲

に関する指導の手だてを細かく示した。自分の考えを正しく読み手に伝えるためには、「推敲」は不可欠であると考え、完成の段階として設定した。

表1 文のつながりや文章の構成に着目した指導の手だて

番号は、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、表現の能力、言語や文化についての知識・理解の各観点を示す。

分類	学習指導要領に示された学習内容	評価規準	指導の手だて
整理	聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想や意見などを書いたりすること。	内容の事実関係や順序などを整理することができる。 自分の考えや気持ちを明確にすることができる。	【事実や事柄】 伝えたい事実や事柄を明確にする。 内容の事実関係や順序などを整理する。
			【考えや気持ち】 自分の考えや感想、意見を明らかにし、整理する。
構成・記述	自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと。	読み手を想定して、書くことができる。 文のつながりや文章の構成を考えて書くことができる。	【目的意識・相手意識】 場面や状況に応じ、書く目的や読み手を想定して書く。
			【内容の中心】 書こうとする内容の中心を明確にして書く。
			【文章の構成や展開】 自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てや展開を考えて書く。
			【文のつながり】 指示語や接続詞及びこれらと同じ働きをする語句を使い、文と文との意味のつながりを考えながら書く。
			【文の構成】 主語と動詞の關係に注意して書く。 修飾と被修飾との關係に注意して書く。
推敲	文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意をして正しく書くこと。 自分の意向が正しく伝わるように書くこと。	読み手の立場になって自分の文章を読み返し、表記や内容を書き直すことができる。	【表記】 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法等確かめて、読み手に読みやすく分かりやすい文章に書き直す。
			【内容】 書いた文章を読み返し、文のつながり等文章や論理の展開を確かめ、読み手に読みやすく分かりやすい文章に書き直す。

#### 4 「文のつながりや文章の構成に着目した指導の手だて」を基にした活動例

活動例作成の基礎資料とするため、英語で書くことに関する生徒の意識調査を行った。その結果、書く意欲を引き出すためには、次の点に配慮が必要ながわかった。

毎時間の授業で不足している学習として、「書くこと」「話すこと」という表現する学習を選んだ生徒が7割近くいる。  
学習形態については、グループで学習した方が英語で書く学習がしやすいと思っている生徒が3割を超えている。  
英語で書く学習をする時どのような授業を受けたいかについては、「ゲームなどが多く取り入れられた授業」「外国の人と、手紙やインターネットで交流する授業」がそれぞれ2割近くいる。

以上を次のようにまとめ、活動例作成の配慮事項とした。

- (1) 毎時間の授業で短時間でできる**繰り返し学習**を取り入れる。
- (2) 生徒同士で助け合いながら書く**グループでの学習**を取り入れる。
- (3) **生徒の書いたものを生かして活動する場面**を設定するために、ゲームや外国の人との交流などの内容を取り入れる。

また、生徒の意識調査から、英語で書く力を身に付けるために必要な学習は何かを明らかにした。その結果、「英語の文章の組み立てについて学ぶこと」「直接英語で自分の考えなどを書くこと」を選んだ生徒が合計3割を超えた。これは、本研究のねらいが、生徒が望んでいることでもあることを改めて確認する資料になった。

上記配慮事項と、「文のつながりと文章の構成に着目した指導の手だて」を基に作った活動例を以下に2点示す。( )内は指導の手だての項目を表す。

##### (1) 文のつながりを考えて書く活動例

活動内容 順番を変えて示した文や節を、話の内容がつながるように並び変える。

目 標 ア 代名詞、接続詞、指示語等の文や段落をつなぐ言葉や表現に気づき、文や節の内容のつながりを理解する。(構成・記述【文のつながり】)

イ 文章の主題を含む書き始めの文を見つける。(整理【考えや気持ち】)

配慮事項 (1) 毎時間の授業で短時間でできる繰り返し学習を取り入れた。

生徒への提示の例

**1** 次の文は順番を変えて示してあります。話の内容がつながるように文を並び変えなさい。

ア So she uses a wheelchair.  
イ She's 90 years old.  
ウ Her legs aren't very strong.  
エ I visit Ms. Yamamoto every week.

\* TOTAL ENGLISH 1 (学校図書)より

正解 **1** エ・イ・ウ・ア  
**2** イ・ア・ウ

**2** 次の文は、色が私達の生活に与えている影響について書かれた文ですが、順番を変えて示してあります。内容がつながるように並び変えなさい。

ア In 1992, a Japanese high school made its track blue. That year, the track and field team marked better records. Do you know why?  
イ Colors have a kind of power over people. What color is your school track? Brick red or brown?  
ウ Blue made the students more relaxed. It helped them improve their records.

\* ACORN ENGLISH COURSE (啓林館)より

##### (2) 内容の中心を明確にし、文章を展開して書く活動例

活動内容 物事や人物など一つの話題について書いた英文を読み、それが何であるか友達に当ててもらう。

- 目 標 ア 内容の中心を明確にし、様々な角度から詳しく説明した英文を、3～4人のグループで3文以上書く。(構成・記述【内容の中心】【文章の構成や展開】)
- イ 相手に分かりやすい英文を書く。(推敲【表記】【内容】)
- 配慮事項 (2) 生徒同士で助け合いながら書くグループでの学習と、(3) 生徒の書いたものを生かして活動する場面設定としてゲームを取り入れた。

生徒への提示の例

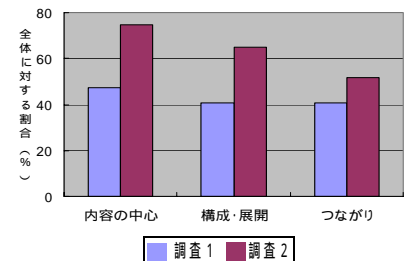
話題	説明の文
hotdog (ホットドッグ)	It's a kind of dog. But it doesn't have a tail. It has a long body. You can eat it with ketchup and mustard.

## 5 活動例の有効性の検証結果と考察

2つの活動例の有効性の検証は、授業の前後に実施した表現力調査の解答を比較・分析により行った。調査は、与えられた話題について内容のまとまった英文を4文以上書くものである。内容のまとまりは、指導の手だてに即し「内容の中心」「文章の構成や展開」「文のつながり」の3項目よりとらえた。結果はグラフ1の通りである。調査1は授業前に、調査2は授業後に行った表現力調査である。

「内容の中心」「構成・展開」の項目については大きな増加が見られた。「内容の中心を明確にし、文章を展開して書く活動」をすることにより、内容の中心を明確にし、文章を展開して書く力が伸びたと言える。「つながり」の項目に関しては、「文のつながりを考えて書く活動」を続けて6回実施し、文をつなげる力の定着を図った。表現に応用するまでにはさらに継続した学習が必要であるが、一定の効果は確認できた。

グラフ1 「内容のまとまり」に関する達成人数の変化



以下の解答は、ある生徒の調査1と2を比較したものである。調査2では、友人であるAについて一貫して詳しく説明し文章を展開している。英文は原文のままである。本調査ではその目的に照らし、文法事項の誤りは意味が理解できれば許容した。

調査1	調査2 *調査1・2とも( )は指定された書き出しを示す。
(This is) my friends. they are very kind and interesting. school is * 1文、内容のまとまりは認められない。	(I have a friend.) She name is A. She is very kind and very interesting. She play piano very much. She play basketball team. She is captein. * 5文、内容のまとまりが認められる。

### 研究の成果

「文のつながりや文章の構成に着目した指導の手だて」とそれに基づいた活動例を作成し、有効性を明らかにしたこと。

活動例の有効性を明らかにしたことにより、正確に書くことを評価することと併せ、書いた内容を評価し指導することが書くことにおける確かな力を伸ばすことにつながることを示した。

### 今後の課題

毎時間の授業に短時間で実施可能な繰り返し学習を工夫し具体案を示す。

「文のつながりや文章の構成に着目した指導の手だて」に基づいた活動例を一層工夫する。